

川崎異業種研究会（略称：川異研）は、昭和62年7月に設立した当所会員企業から集まった異業種交流のグループです。

川崎異業種研究会のホームページ <http://www.kawaiken.jp/>

9月定例会



講演内容を熱心に聴き入る参加者



講師の永石氏

9月12日（木）、当所にて会員13名、オブザーバー2名、和光大学学生8名の参加者を得て9月定例会を開催した。講師に慶應義塾大学 SFC 研究所 上席所員 永石尚子氏を迎え、「よそ者・若者がうみだす三条市の新しい価値と伝統の継承」というテーマで講演が行われた。講師が関わる新潟県三条市東部にある下田（ただ）地域で行われている地域活性化事業について、詳しく事例が紹介された。三条市は「金物のまち」として全国的に有名だが、少子高齢化やシャッター商店街、若者の地元離れなど多くの社会問題を抱えている。そんな中、三条市長ほか地元の自治会長などが中心となり開講された「ただ塾」は、

旧小学校を利用した滞在型職業訓練。県外からの若者も集まり、自然環境や観光資源を生かしたカリキュラムで学んでいる。外部人材だからこそ、常識にとらわれない発想や企画が生まれている。地域活性化事業の事例として、古民家をリノベーションしたユニークでおしゃれなカフェや、地元産サツマイモを使った芋焼酎づくりほか、新潟県内で初めて発足した3人制バスケットボールのプロチームなど事例が紹介された。

参加者からは、大変興味深い内容で1時間があつという間だったと好評を得た。また講師には10月の国内視察会（燕三条）で訪問する視察先選定にもご協力頂いており、講演の中で視察先企業の説明も盛り込まれ、来る視察会がより身近に感じられた。講演会後は、講師も参加され交流会が和やかに行われた。

9月勉強会

9月19日（木）、会員7名、和光大学学生2名の参加者を得て9月勉強会を開催した。会場は東京都大田区にある㈱日本メンブレン（当会会員）。今回は代表取締役 吉田厚英氏に社業紹介と会社案内をして頂いた。同社が入るテクノFRONT森ヶ崎は工場集積の維持発展、地域産業の活性化に寄与する為、大田区が建設し平成20年に開設した「工場アパート」。耐震も非常に優れ、東日本大震災時もあり危険を感じなかったという。勉強会では、メンブレンスイッチや無機EL等、日本メンブレン製品についての説明があった。会社見学のほか、現場の興味深い話等も聞くことができ、大変充実した勉強会となった。

加入のお問い合わせは

事務局：麻生支所 TEL 044-952-1191